

田舎暮らしのみちしるべ

第17回 IJU（移住）応援団交流会を
美川コミュニティーセンターで開催

【新しく IJU（移住）応援団になられた河内応援隊と地域を紹介いたします】

南河内地区は、錦帯橋から車で約15分の位置にあり、出張所を中心に17の自治会、世帯671戸、人口1415人で構成されています。南河内の歴史は、明治に12ヵ村が合併し南河内村、昭和30年に岩国市と合併し現在に至っています。

稲作が主な産業ですが近年は、若い人が中心に天然酵母のパン屋、手づくりの小物店、イチゴ農園、ガラス工房、カフェなどを起業し活気のある地区です。春は、菜の花まつりが岩国西中学校で催され、南河内駅周辺は、菜の花の黄色と桜のピンク色のコントラストが素晴らしく、錦川清流線のラッピング列車の撮影に多くのカメラマンが集うビューポイントになっています。秋、黄金色に染まった水田の中を走るラッピング列車も素晴らしく年中、南河内を楽しむことができます。

河内空家応援隊は、隊長 丸茂康雄さんを含め10名のメンバーで昨年6月に発足しました。丸茂さんは和木の元消防所長で、現在は民生委員をされています。河内空家応援隊は、土生、上田、行正、近延地区の空き家を訪問調査し3件の空き家バンク登録に繋げました。その内の2件が成約されました。



左写真、左から高木さん、代表丸茂さん、勝田さん。

右写真、左上坂本さん、左下石津さん、右下小幡さん。

【新しく IJU（移住）応援団になられた美川定住促進協議会と地域を紹介いたします】

美川町は、市北部の山代地域にあり、北から南に流れる錦川沿いにある集落、38の自治会、世帯652戸、人口1117人で構成されています。町の歴史は、明治期以降に鉱山開発が進み、玖珂鉱山などで産出された銅やタングステン（タングステン）は日本有数の生産量を誇りました。最盛期の昭和30年代には鉱山従業員の住宅が並び活気ある街でしたが昭和40年代後半に鉱山は閉山になりました。平成18年3月に岩国市と合併し現在に至っています。

錦川ではシーズンに多くの鮎釣り愛好家が集い、カヌーやラフティング等のレジャーも盛んに行われています。鳴き声の美しい天然記念物南桑カジカガエルの生息地として国に指定されています。

美川定住促進連絡協議会は、事務局の片山原司さんを含め46名のメンバーで昨年5月に発足しました。移住応援団は、Uターンを基本として空き家所有者への移住促進の活動や空き家の調査を実施してきました。活動の成果として空き家バンク登録に2件繋げ、その内の1件にて成約に成りました。

写真は、移住応援団交流会での様子です。



【美川コミュニティーセンターにて移住応援団交流会を開催】

第17回IJU応援団交流会を平成29年1月17日（火）に美川コミュニティーセンターにて開催しました。当日は市内各地から25名の方に参加いただき、事例発表や情報交換を行いました。お忙しい中、ご参集いただいた応援団の皆様には大変お世話になりました。

【要約】

平成28年度のUJIターンに関する業務の状況は以下の通りです。相談件数は267件（12/28現在）。空き家登録5件は美川町2件、南河内2件、錦町1件。空き家成約件数は6件と増加しています。

内訳は美川町3件、周東町2件、美和町1件です。

空き家成約6件に繋がった要因は

- ①財道具等処分費の助成制度の拡大
- ②新規空き家登録を5件できたこと
- ③現地案内を18組と多く案内できたこと

が理由と考えます。



《美川地区定住促進連絡協議会の発表内容》

小さな集落の人たちが集う会で女性が集まってヒアリングを行いました。美川町は高齢化率50%以上、平成18年3月の合併以来人口が3割減少している状況にあります。現在Uターンを中心として移住促進の活動をしています。空き家の調査の結果、空き家は153軒あり、その内64軒が活用できそうな物件であることが分かりました。今後は行事予定などを美川ふるさと通信に掲載（2回/年発行）し、この通信誌を空き家所有者に配付してUターンに繋がればと考えています。

《河内空家応援隊の発表内容》

移住応援団はまず人材を集めることから始め、60歳代を中心として10名で発足しました。自治会、社協、民生委員などから空き家・所有者の情報を集め（この情報が重要）、若い人のグループや起業家をバックアップしながら昨年6月から活動を始めました。空き家所有者の所在場所や相続がきちんとなっているかが課題と感じました。

事務局から 平成29年6月に第18回IJU（移住）応援団交流会を本郷支所で開催予定です。